様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １０ 日現在

機関番号：３３９１０
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2019
課題番号：１８Ｋ１２４７２

研究課題名（和文）テスト条件が外国語読解テスト不安の振る舞いに与える影響

研究課題名（英文）The effect of test conditions on foreign language reading anxiety

研究代表者
三上　仁志（MIKAMI, Hitoshi）

中部大学・人文学部・講師

研究者番号：９０７７０００８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、次の3課題の解決を目指した：①外国語（FL）の読解における不安（読解不安）の測定に使用される主要な心理尺度は，研究目的ごとに使い分ける必要があるのか？　②テスト状況で発生する不安と読解不安は，同じ心理状態と考えて良いのか？　③どのような要因が，FL読解テストで生じる不安を高める，または抑制するのか？　日本語を母語とする大学生英語学習者計から得たデータの分析から，次の3点が明らかとなった：①既存の読解不安尺度は，研究目的ごとに使い分ける必要がある，②読解不安とテスト不安は，異なる心理状態である，③4つの要因が，FL読解テストで生じる不安を高める，または抑制する可能性がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　概要にある課題①は，不安とテスト成績の関係性が，使用する尺度次第で変化する可能性を示している。課題②は，読解不安とテスト不安が異なる構成概念である場合，外国語読解研究における不安の捉え方を再考する必要があることを示している。また，読解テストは外国語の熟達度判定に広く用いられるにも関わらず，テストのどのような性質が不安と読解成績の間に体系的な負の関係をもたらすのかは，これまで中心的な問題として扱われてこなかった。以上の理由から，本研究は，不安とFL読解テスト成績の関係を検証する上で重要性の高い課題①～③の解決を目指すこととした。

研究成果の概要（英文）：(a) The first study discusses the interchangeability of three self-report measures for reading anxiety. Despite their differences in target constructs, the three scales have been used for similar lines of research. The author reaches the conclusion that the scales are non-interchangeable with one another.
(b) While foreign language (FL) reading anxiety (FLRA) has been treated as a unique construct, the possibility that FLRA is only a subset of the test anxiety (TA) construct has long been ignored. The second study was done to obtain a clear picture on this topic. The test results confirmed the independence of FLRA from TA.
(c) The most intriguing result of the third study was that the majority of the participants had experienced anxiety in situations where they lacked an effective strategy to solve given reading tasks.

研究分野：応用言語学

キーワード：外国語読解不安　テスト不安　テスト条件　外国語読解テスト

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

読解テストは，外国語（FL）の熟達度判定に広く用いられる。しかし，不安が FL の読解過程や読解成績に与える影響について調査した研究は，数が限られている。先行研究は，テスト状況で受験者が感じる不安感（以後，テスト不安）が，妨害的反応の発生を通して FL 読解テストの成績に負の影響を与えることを認めている。また，FL 読解に特有の不安（読解不安）は，課題文の完全な理解を妨げる要素（例えば未知語）の存在によって引き起こされることが確認されている。

一方，どのようなテスト条件が不安と読解成績の間に体系的な負の関係をもたらすのかは，これまで中心的な問題として扱われてこなかった。テスト不安や読解不安は，特定の状況で生じる心的特性であるため，それが全ての読解テストの成績に等しく負の影響を与えるとは考えにくい。このことは，(a)先行研究における不安とテスト成績の間の相関（の強さ）にバラつきがあること，および，(b)少数の先行研究において，不安とテスト成績に体系的な関係が見られなかったことから裏付けられている。研究開始以前，どのようなテスト条件が FL 読解における妨害的不安の発生要因となるのかについての答えは，存在しない状況であった。

２．研究の目的

本研究プロジェクトの申請後，著者は，読解課題の認知的負荷の程度が読解不安の誘発要因の１つとなることを確認した(Mikami et al., 2018)。また，上記の研究を実施した際に，解決を要する課題が，2 つ浮上した。

A)　読解不安を測定する尺度は複数存在するが，それぞれの尺度が，同じ構成概念を測るものかどうかが，明示的に示されていない。

B)　テスト不安と読解不安が，同様の構成概念であるか否かが，検証されていない。

上記の A）は，不安とテスト成績の関係性が，使用する尺度次第で変化する可能性を示している。また B）は，読解不安とテスト不安が異なる構成概念である場合，FL 読解研究における不安の捉え方を再考する必要があることを示している。以上の理由から，本研究は，不安と FL 読解テスト成績の関係を検証する上で重要性の高い課題 A）と B）の解決を目指すこととした。

これに加え，本研究は，インタビュー調査を通して FL 読解テストで生じる不安の変動に影響する要因と不安緩和の方法を探索することとした。

C)　どのような要因が FL 読解テストで生じる不安を高める，または抑制するのか？

参考文献

Mikami, H., Leung, C. Y., & Yoshikawa, L. (2018). The threshold of anxiety in low-stakes testing for foreign language reading. *Reading in a Foreign Language*, *30*, 92-107.

３．研究の方法

（１）データ収集（研究課題 A および B）

日本語を母語とする大学生英語学習者計 115 名を対象として，以下のデータを収集した：(a)FL 読解テスト得点（学習者にとって適切な難度のテストと難度の高いテスト）（n = 58×2），(b)読解不安（N = 115×3 尺度），(c)テスト不安（n = 58×2），(d)多読活動での達成度（n = 57）。収集したデータの詳細については，論文業績 1 および学会発表 2 を参照されたい。

外れ値を除外した後，収集したデータを用いて，3 種類の読解不安の関係・振る舞いを検証し（課題 A），その後，読解不安とテスト不安の関係・振る舞いを検証した（課題 B）。

①データ分析（課題 A）

3 つの主要な読解不安尺度が，同じ構成概念を測定するか否かを検証するために，(a)尺度間の Shared variance を算出し（n = 56），各尺度と(b)読解テスト得点および(c)多読活動データの関係を分析した。(a)と(b)の両ケースで，検定結果に影響を与える可能性のある学習者の熟達度の影響を統制し，(b)では，これに加えて読解課題に関する事前知識と課題の主観的困難度の影響を統制した。

②データ分析（課題 B）

読解不安尺度とテスト不安尺度が，異なる構成概念を測定するか否かを検証するために，(a)2 尺度間の Shared variance を算出し（n = 56），(b)各尺度と読解テスト得点の関係を分析した。(a)と(b)の両ケースで，学習者熟達度の影響を統制し，(b)では，さらに読解課題に関する事前知識と課題の主観的困難度の影響を統制した。

（２）データ収集と分析（課題 C）

日本語を母語とする大学生英語学習者計 7 名（N = 7）を対象として，インタビューを実施した。Grounded Theory Approach を用いてデータをカテゴリー化し，質的に解析した。

４．研究成果

（１）課題 A

読解不安間の Shared variance は，高い数値とならなかった。また，各尺度と読解テスト得点・多読活動データの関係は，いずれもユニークなものとなった。以上の結果から，本研究は，3 種類の読解不安尺度は，それぞれ異なる構成概念を測定しており，そのため，研究目的に応じた使い分けが必要である，と言う結論を得た。論文業績 1 および学会発表 4 は，本件研究の結果をまとめたものである。

（２）課題 B

読解不安とテスト不安間の Shared variance は，低い値となった。また，各尺度と読解テスト得点の関係は，大きく異なるものとなった。以上の結果から，本研究は，読解不安とテスト不安は，別の構成概念として扱われる必要がある，と言う結論を得た。学会発表 2 は，本件研究の結果をまとめたものである。

（３）課題 C

データ分析の結果，4 つの要因が，FL 読解テストで生じる不安を高める，または抑制する可能性があることが明らかとなった。第一に，学習者がテスト結果に対して感じる主観的な価値が高い場合は，テスト状況での不安も高まる傾向が見られた。第二に，テストの結果が教師やクラスメイトなどに評価される状況で，不安は，高まる傾向が見られた。第三に，何らかの方法でテストでの失敗を取り戻せる場合，不安は，高まりにくくなる傾向が見られた。第四に，主観的難度の高い課題において使用可能な方略の数が多い学生は，そうでない学生と比べ，テスト場面でも不安になりにくい傾向が見られた。以上の結果は，読解方略の明示的指導が，テスト状況での不安を下げる方法として有効であることを示唆している。学会発表 1 は，本件研究の結果をまとめたものである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 Mikami Hitoshi	４．巻 31
２．論文標題 Reading anxiety scales: Do they measure the same construct?	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Reading in a Foreign Language	６．最初と最後の頁 249-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Leung Chi Yui、Mikami Hitoshi、Yoshikawa Lisa	４．巻 10
２．論文標題 Positive Psychology Broadens Readers’ Attentional Scope During L2 Reading: Evidence From Eye Movements	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Frontiers in Psychology	６．最初と最後の頁 2019.02245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2019.02245	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 Mikami Hitoshi
２．発表標題 Is foreign language reading anxiety a subset of test anxiety?
３．学会等名 The 26th annual meeting of the Society for the Scientific Study of Reading（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Mikami Hitoshi
２．発表標題 Tests make foreign language readers anxious: What teachers can do in everyday practice
３．学会等名 CHALLENGES 9（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 三上仁志、塩澤正
２．発表標題 Immediate and sustained effects of semester abroad experience on target language reading proficiency: A longitudinal study
３．学会等名 The 2019 conference of the American Association for Applied Linguistics（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 三上仁志
２．発表標題 Functional differences in reading anxiety measures: Focusing on the anxiety-performance relationship
３．学会等名 第1回JAAL in JACET学術交流集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 三上仁志
２．発表標題 Anxiety-performance interface in testing for foreign language reading: Shedding light on text misinterpretation
３．学会等名 The 3rd International Conference on Language Education and Testing/Language Education and Emotions（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 三上仁志
２．発表標題 外国語読解不安研究の成果と展望
３．学会等名 大学英語教育学会中部支部2018年度秋季定例研究会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考